

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0463 ◆◆◆

17/12/20

【 2017 年の為替・金融業界 10 大ニュース 】

今年も残り 10 日ほどになった。そこで少し早い、今回の当レターでは年末恒例である筆者の独断と偏見で選出した今年一年の「為替・金融業界 10 大ニュース」を報じてみたい。読者の皆さんの考えるニュースは果たしてランクインしているだろうか。

◎特筆すべきは「トランプファクター」、金融市場は株価と為替で明暗くつきり

まずは筆者の考える「為替・金融業界 10 大ニュース」を以下ですべて列挙、そのあとで簡単な解説や講評などを記してみたい。

- 1;トランプ米大統領が正式誕生、あちこちで言動などが物議を醸す
 - 2;NYダウが史上最高値更新、日経平均株価も一時バブル崩壊後高値を塗り替える
 - 3;「バブル」の指摘も根強い仮想通貨ビットコイン旋風、分裂や先物上場も
 - 4;ドル/円が年間を通した風相場、変動率は 10%以下で史上 2 番目の小変動
 - 5;北朝鮮が 6 回目となる核実験を成功させる、弾道ミサイルの発射も相次ぐ
 - 6;今年選挙イヤー、日米やドイツ、フランス、英国など世界各国で政権不安が台頭
 - 7;トルコ・イスタンブールや英コンサート会場、米NYマンハッタンなどで大規模テロが相次ぐ
 - 8;米FRB次期議長に、パウエル理事の就任が内定
 - 9;「一帯一路」を掲げるなど目覚ましい中国の台頭、中露 vs 日米の構図が鮮明化
 - 10;日産や神戸製鋼など大企業で不祥事続発、日本のモノづくりへの信頼感が揺らぐ状況に
- 番外:「スペイン・カタール・ニヤ州が住民投票結果を受け、一方的に独立を宣言」「韓国朴大統領が逮捕・罷免され、文新政権が誕生」「都議会選で自民惨敗、都民ファーストの会が躍進」「秋篠宮眞子さまの婚約内定」「100メートル走で、日本人初の9秒台を記録」「将棋の藤井聡太四段が公式戦29連勝を記録」「テロ準備罪法が成立」「天皇陛下退位の特例法が成立」「東芝をめぐるゴタゴタが長期化、米WDとの係争はようやく和解」「15年のパナマ文書に続く、パラダイス文書が流出し話題に」ー(順不同)

ー今年世相を一言で示すなら、「トランプ米大統領に振り回された一年」と言えるかもしれない。筆者が 1 位に選んだのも、ひとつの出来事だけを考慮してのものではなく、「総合」的な意味合いを加味して。実際にトランプ大統領が関連した要因を見てみると、たとえば「ロシアゲート事件」「イスラム圏などを対象にした出入国制限を受けた大混乱」「フェイクニュース騒動などでメディアとの対立激化」「TPPからの離脱表明」「ユネスコからの脱退表明」「北朝鮮のほか中国やロシアとの対立も鮮明化」「エルサレム首都認定問題」ーなど、枚挙に暇がないほどバラエティーに富んでいる。そして、それらを受けて金融市場も一時的にせよ、マーケットが乱高下をたどったことは一度や二度ではなかった。いずれにしても、トランプ政権と北朝鮮との戦争があるのかどうか注視されているなど、このあとも引き続き予断は許さない。「トランプ劇場」は来年も続く可能性がある。

一方、2-4 位に選んだのは、いずれも金融市場のニュース。ただ、こちらは株式市場やビットコイン取引などが活況を呈する反面、為替は総じて動意が鈍く、ひとくちに「金融市場」と言ってもかなり対照的な結果となった感を否めない。金融市場で指摘される相場格言のひとつに、干支と絡めて「申酉(さる・とり)騒ぐ」と言われるが、実際に「騒いだ」のは株価とビットコインだけで、為替は一年を通して通夜状態であった。来年は戌(いぬ)年で、「戌笑う」と言われるだけに、多くの市場参加者が笑顔になるような為替の変動を期待している。

最後に、今年総じて明るいニュースに乏しかったが、「秋篠宮眞子さまの婚約内定」ーなど「番外」として幾つか選んだようにまったくないわけではなかった。来年こそは、良いニュースばかりの一年になることもあわせて祈念したい。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

